

（調理竹者 福垣浩）

油漬旗の旗

1部 100円

「旗は狂いじゃ、南面世大」
「旗は狂いじゃ、南面世大」
「旗は狂いじゃ、南面世大」

泉野の中
千代運捕さ似て金ヶ崎崎竹者に

救援パンパを

金ヶ崎救援会

大の市面成区東田町四四 野鳥の会発行

◆編集後記◆

◆ 原稿依頼者の中で書いてくれない人々、友人がいた
事や、本年度二度目の、金ヶ崎運動の編集時期が
重なり、投稿が少なくて、便刊一巻にしては少パーシ
の発行になりました。

◆、金ヶ崎運動を志せる会、は近いうち独自にパ
ンフレットを発行する予定とぞうです。

◆、今回入塾が原因となり、た、暴力手師師の問題
は次巻にレポートを書けてもらおうつもりです。

◆、南大阪に往んでいる人々、
南大阪で活動して居る人々、
情報を交換しようではないか。

投稿募集

南大阪の旗

目次

- ◆ 連載 必死争闘について入111
- ◆ 反動警察の二十万の恐怖川下りも
- ◆ 金ヶ崎運動のつらさ

II-1
72.6.10
南大阪の旗編集委員会 発行
連絡先 大阪市面成区東田町四四
野鳥の会 気付
定価30円

発行にあたって

昨年七月、旧南大阪の旗を再発行していた南大
阪解放戦線が解散した。正式な解散声明は出なかつ
たが、以て派の七の年六月末戦の敗北後、入管斗
争をギョウカトとして、南大阪を根拠地とするため南
大阪解放戦線が組織された。しかし、確保入管斗争
から部落解放運動、金ヶ崎解放運動、中小企業工作
等に分かれていく中で、各運動の相違点や特殊性、
日新性から、統一政治組織としての南大阪解放戦線

を維持することができなくなり、編成一年目にして
解散した。

旧南大阪解放戦線に参加して来た人々は、その後
バラバラになり、他組織や他地帯に移った人もいる
が、今も南大阪でカンパをテいる人も少なくない。
これらの残っている人は、バラバラに活動しており
足元に固まらないうちに、発言の場が少ない。

こうした事情から、再び南大阪の旗を再発行し
旧南大阪解放戦線のメンバーを始めとし、広く南大
阪で活動している人々の場とを互にたい人々の意

與交換の場になりうれば幸いであると考え、おえて
名称の変更は事、南大阪の旗」として発行すること
を決定した。 (不下一夫)

連載—光洋争議について—

七年前、スッドベイも去らずに別れた労働者が、
あいにん(金々崎)組合でニター内の職守で、失業
保健会へ七六〇円を受け取っているのを知り目に
した。なつかしさと共に、いさりうなことが思ひ出
された。

そのころ南海電車の走るすぐ近くのドマ①に居た。
三層の部屋に、重た四人、二段ベッドに二人の計六
人がゴッ寝する各部屋で、ドマ①は一日八十四であ
った。

はく穿か白くかすお寒い朝、動き出す自動車にし
がみつき、走り、とぶのり、貸金も、職種も、作業
現場も前かすに おしだま、て産り込んでいる私の
耳もとで、手前師がおりるとい、こもおりをうあか
んで、しんぶんふりして下むいとけふと注意してく
れた、その時の所のいり労働者である。寄り場が少
し離れたところまで止った車口車に口、座席はど
いて居た。直接前台に腰を下ろし、つめは

いられ、いまのようにマイワロバスを求人にくる
手前師は心なつか。三日前に、金々崎労働者
の諸権利の獲得、解決にむけて結成された労働組合
面成介会と金々崎労働者が、之を得た成果のむこつ
けりであらう。

三人ほど多いから下りてくると手前師が去、
た。私は去れぬようにして居た。はじめて二人下
り、一人下りた。つれづれの労働者はトボけてアアを
でこいた。しらば、くるといいうやである。私は
急におかしくな、て、しんぶんふり込んで顔には親を
うすめて笑、た。

その日の午後、私の手の平には大なる水ぶく此
出来て居た。それを見つけたら、労働者をしてこ
この喜ぶがこみあげてくると同時に、ピンハネをす
る手前師、日雇いという名のもとに、労働者として
の権利を小かたがる大企業資本家に押し、終りが

このあけをさる。

労働者は私にいつた。一生涯懸命にたのめん
て、わしらは何の保障も口いから、ヶがせんように
働かひあかへ。一生涯懸命にたのめん、相手へ資本家
に、通じんのや。わしらは、今日仕事があ、ても明日
は無いれも知れん、体だけだたのりやから口いとい
つホルモ、こうんをすす、た。

いことな、わがしげなその労働者は、思いつた
本多と斗つてぬさの同情をよせた。その姿は十
年たのちの自分の姿であるといふことか、私にはそ
のいさ分らなかつた。やがてそれに気がつき、斗い
に上から自分想像することは出来なかつた。

その当時の私の目標は、はるかしたから、地位や
金々名譽を得ることであつた。若時をして、資本の
奴隷になつて、こしやがて金を得る(労働者を搾取、抑
圧する)スミ道であつた。なんとあほらしいことを
志して居たことか。

この宿泊してはドマ①は、去るのたりの部屋を
有、一階の多くの部屋は、そのために空室であつ
た。土曜日の夜は、一階の部屋が満員になり、二階
のへに居るふの部屋の下の、性交の売場が始る。

私は金々崎の状況を知らぬ段階で、その時もよくわ
かた労働者、金々崎を離れぬ。

それからの六年後、今度は、金々崎労働者そのもの
として、求人バスに乗り込み、日当二千二百円の
タオ干現場の光洋工業KKへ入社した。で働くこと
になる。朝八時から夕方五時まで、親会社である
光洋鋼KKへ鉄筋を生産して居る。出系にこの
鉄筋を結束して、天井クレーンがフリ上げてくる
鉄筋のタダを所定の位置におろす仕事は主であつた。

金々崎から約二〇人は、お時時働かされて居た。
私はそこで工作し、労働者を求むせうといふ気
は口か、た。それより、お時時働かされて居る
た。それが自分の日和見を捨て、斗いに立ち上
ることに決めたのは、現場での斗争をやらぬ限り、
金々崎の労働者の権利獲得はあり得ないと思つたか
りであつた。 (つづく、玉冊 五冊)

討工

調理労働者
の新風
申しこは労働者誌

釜ヶ崎メーデーをとり替りて

反動警察のツケおどしを怖れるよりも

己が心の弱さを怖れよ。

メーデーを奪去行刺にしようとする反動警察の悪企は、俺たち釜ヶ崎労働者の団結した力によつて、みごとく粉碎された。

一部の仲間が、つひつて強圧の口実を敵に与えまいとして、俺たちにレールの工を止しれと要求しているが、それはブルジョア階級に比つて利益ある道理であつて、労働者階級にとつての道理ではない。

それや知門ものであろうと、俺たちの搾取階級とやら手突いたらに好する反乱は、正義の斗いである。

俺たちの斗いが正義であり、反動どもは、自分たちの未来をすすす知知りであることを知り、いよいよその本性をむきだしにして兇暴に口を。釜ヶ崎は、今や反動警察が右往左往するやうな激戦状態になつて居る。

俺たち釜ヶ崎労働者は、ひるまず、おどろくもせず、搾取階級のさいるの悪奴をさび粉々に打ちくだくだろう。

(久保田洋一)

釜ヶ崎自又まつりの呼びかけ(案)

労働者階級の組織である

釜ヶ崎の労働者は一般社会(市民社会)からは引出したり、引込まれたりする人々が多い。

社会が側面した。しかし、年を取つて他にない何事口も聞かぬといふ人々へは、彼等が労働者や農業者を知らぬ人々も多い。中学を出て禁煙取締る大阪に帰るが、会社にだまされて戻り、いまだ家に帰らぬ者も少なくないといふ少年たち。

酒を飲まずで失敗し、又飲まずにはいられぬといふ人々。道を犯した人々。こうした人々が、他にいくところを失ない、ついに釜ヶ崎にたつてきて居る。

だから、釜ヶ崎では、詳しくはあつた過去の曲りないことが、労働者の習慣になつて居る。人に話したくない過去を持つ人々にとつては住みやすい所である。しかしこれに逆に作用して、人間関係がなかなかならぬ。

ほとんどのドヤやが、個室へ個室といつても多く

口を二重であり、密置所より狭いから、カニオケに入つて居る所に居る所もあるといふなり、又ドヤ住いの七割は警察調やで日勤者へ結婚して居る。現在一語に住んで居ないハト切ればお茶を田舎に妻や子供がいる人を独身扱いにして単身者として居るにせうである。

こうして、〇・七平太キロメートルの中に、二月人以上の労働者がありながら、共同の活動が何もなしに算しのため、ゆいゆい二人一人はバラバラであり孤獨である。

労働者の集しは限られて居る

市民社会から追ひ出された人々にとつては、市民社会の娯楽、文化は遠く存在である。市民社会のように出世や名譽とも縁がなぬ。

多くの労働者にとつて、たのしみ(あるいはウサハラ)は、酒かギャンブルしかない。アルコール

ゴールの群の中にもすべての若しをまぎらわせず、ギャンブル(競輪、競馬、競艇、他のボクシング)にスリルと金を求めている。それ以外のためレジャーとして一般的なのは、千二コト映画、スポーツ鑑賞、見るだけ、今からいこう。

〈越年斗争の成果〉

越年斗争の中で、いかに釜ヶ崎労働者が権利を奪われていたかを知らされた。〇、七平六五日に二十人以上の労働者がいながら、労働者のための集会場モザランドも何一つない。わかれは、越年を共同してという考えをもつて行なうとしていた。十二月十日、越年のための要求を行政に伝えた。けるための簡単な集まりも行なわれた。通称三商公園で行なわれたが、寒さのため、少人数のため、もろあからず、早急に終了した。時間をもちあました越年対策実行委員会仲間が、すもろを始めるに行動をひか、こころ、見物料として打つて出た人まで来てきて、集まりも多くの人があつたり、わかれは、労働者が共同して自主的にスポーツをするこころの少なさを、困難を教えた。

この教訓から、越年斗争に文化、体育を積極的にとりあげ、ソフトボール、すもろ、バドミントン、のび自慢大会、もちつき大会を企画した。

ソフトボールの会場は、今官中学校的校庭をかりた。クラブ活動が休みの前というこころを正しくかたさないように。最初人が集まるかどうか心配していたが、ホーリ目(十二月三十日)の雨は少なくて正に月二日には、百名ぐらゐの人が参加し、十チームの同下十メートル戦まで行なわれた。

十二月三十一日の夜行なわれた、のび自慢大会には百名近い労働者が参加して歌をうたい、数百名の労働者が加わっていた。

こうして、文化、体育活動の成功は、いそんな批判もあるが、なによりも、釜ヶ崎労働者が、共同して、自主的に何かをするこころの楽しさをハッキリさせたと思う。暴動の中で、口仲間を思い出し、生き生きとした眼をして、労働者を非難に多く見ることができる。集団で、共同して何かするこころの重要さを、斗いの中でも忘れているらうと思ふ。

〈労働者の精神的、文化的要求に答える運動を〉

釜ヶ崎労働者の物質的、精神的要求を上げ、その組織として全港港面分会が存在し、それなりに活動している。

しかし、釜ヶ崎労働者にとっては、精神的文化的な「市民社会」への反響は、体制内小市民にのみとる意味する。

資本家の行政、ピンハネ手取師、人夫出しへの集団的、直接対峙も行なわれながら、労働者の内部での共同した作業、自主的創造活動、文化活動は、出てはくなく、単純な「金目当て」で「物目当て」のアルバイト、時次元にとまわっている、小市民にはくなく、運動はくなく、いこう。

釜ヶ崎医療を考へる会の一札から

― 運命を求めて諸個人が斗争せよ ―

☆ 現病から出発するこころ

年三〇〇名にもなる行路病(行脚病)患者、そして多くの労働者の体をむしばむ病核、肝硬変、

釜ヶ崎労働者の「反市民」「反秩序」「反警察」といって、反体制的、反資本主義的、反ものを否定せず、逆に育てあげ、形をもた、意識的なものにするためにも、文化活動、集団活動を一層増していくべきだと思ふ。

そのための一つとして、夏まつりを盛大な規模で行なうのではないか。(中村豊秋)

予定 八月一日(五日)
催し 歌、おどり、映画、演劇、何でも
場所 大阪市西区釜ヶ崎

性病……。

だが、現在の病状は、こころの釜ヶ崎の事情に添えるところから、殺人工場と化してしまっている。自介の体は悪くなっているのわがわが、病入る

行かばいへ行けぬ。そして、僕の体口をいかに
つてもかまへん。つ先んでもええ」と高叫しぬる。
これは「病院へ行つても代りにさめ口ウにみても
ええはい」と本當にならぬ。それこそさうか、か
えって悪くされる。の五体を知っている者者の
荒蕪した医療に對する指議の一種態なのだ。

大和牛車病院の診療は無縁の悪らつた救急病
院。彼等崎嶇の道に「やまを」とよけい者として
て隔離し、管理するにの精神病院、その奥庭から
結核、性病患者の奥庭、インキマ酒屋、メニ屋の奥
庭まで、ゆれゆれはままだ知らぬ。調査活動が
必要である。その基本視察は「患者、被害者、
素人からの医療を望む者看護婦の会」の高野結子さ
んに教へられたのだから、井筒三〇〇〇人の行路病
者の死を生かすために「彼等は何を求め、何に抗
議していったのか」ということである。

☆素人、下層大衆の立場に立つこと

調査する時、「素人大衆の立場に立つ」とことば前
提となる。なせなら、今まで「泣き寝入り」をして
らひてきた大衆は、「同じ立場」にたつてくれる人

た。我々は五月一日、三由公園で無料健康診断を行
な。た。ゆれゆれは、苛む者の要求が非常に大きい
ことへ生活者組織する斗いの中で大口位置を占め
ること、しけしその要求にたえざるをもつてい
いことを所った。あるメンバーはこういつてい
「みんな自分の体について自分からほんん話し合
した。従つて今まであまりなかった医療について
互いに話し合ふ場を作ること。また増知者の方が
具体的に「く自分の体を知つてあり、ゆれゆれは
Xをしなければ。た」
当日は、ゆれゆれ内部のバラバラ、そして手依
に来た「市大グループ」の無原則な関係が露呈し
みんなからい飛しくも、「学生さんがデータ作り
来た」と思われただ。統一軸の確定を。

また、時折者の中に「愛情衣食」化した部分、非
常にたより甘えてくる部分があったこと、これは今ま
での自称工士「互」親が大家に物を「与え」下層大
衆のすばらしい魂を骨ぬきにしてきたこと、ゆれゆれ
ゆれゆれ。ゆれゆれは大家に「良」時医療「を与え
て下さい」と医師にお願ひしようという談。た者には
推してゆけぬならぬし、みんなに好して、医者に

はしけホンネを話さぬし、従つて当團の目標は
ホンネを振りかざし、集約することでもさういから
だ。これは現在「金」論医療を著える会、の道而レ
ている第一の問題だと思ふ。

今日にはい、こ「証冬斗争」の医療陣——筆者は
ゆれゆれなかつたが「を」をたつた部分を中心、医
療現場で殺された人さんの問題を手始めに結集した
我々だが、例えは人さんのことについて、後は「
個人的人」死んだのではなく「社会的」殺された
のだ。何ともしなくては、とい。た程度でしかはい
た。ゆな「大向」は、その後も基本的に「を」
いない。びびとも、その統一の軸を「医療能力」
とされた「素人大衆の利益をいけること」に確定しな
ければならぬ。私自身も不十分であり、医療被
害者から聞き書きを続けている「被害者、患者、素
人からの医療を望む看護婦の会」や「医療被害者
連合」の運動に参んでいきたいと聞っている。

☆専門家が素人に残れる依存関係をうちやぶる事

ふさんの問題、精神病院内でみんなと共に要求し
て待遇を改めさせたMさん等、具体的にゆれゆれ

た。よつては自分達の医療を作らないことをハッキリ
させていかねばならぬ。つまりこういふことであ
る。医療斗争は「医療能力の再生産機構を維持する
のか」という根本的、原則的が力の問題をめざさ
ず、一部で出さ出している診療所の構想に對し
ても、この原則の具体的確認がなければ「利用す
る」とゆれゆれ側につけることができない」とい
ふも堅語となつてしまつたらう。

☆連帯を求め、諸個人間で斗争すること

五月一日の健康診断でも明のつになつたが、金
「新医療を考へる会」の内部、各メンバーの方向は
バラバラな方向を、互いに出してぶつつけられ表検す
る場と方式を確立してはいないこと、これはゆれゆれ
対立を明確にした上での團結、これはゆれゆれは
幹もよく総括もない、そして露骨もない。だから、
具体的にどうしていかねばならぬ。つまり、最
初は大が、ゆなものでよいかう、基本的な方向へ結
集軸を確立し、公算を確定すること。次に、さうい
ふ述べた「病」の学習会へ「互」時進化しなればな
らぬ。これは、素人のホンネの集約を具体的に保

